

パート1 シーン1-1 博霊神社

ここは幻想郷の博霊神社

1、霊夢が縁側でまったり(緑茶)

霊 夢「(ずずずずぞぞぞぞ〜)ふはー、今日もイイ天気」

【画像①】霊夢いい笑顔

2、そこにアリスと魔理沙

【画像②】二人でおしゃべりしながら霊夢の方へ

アリス「あ、霊夢。またサボリ？」

霊 夢「休憩中よ」

魔理沙「きっと今日は休憩の日なんだよ」

アリス「じゃあ、明日は？」

魔理沙「神社閉店の日」

霊 夢「くおら！」

魔理沙&アリス「きゃっ！」(二人で抱き合っ

霊 夢「……あ〜、アンタたち、ホントに仲いいわね…」

【画像③】こめかみを押さえる霊夢

3、アリスがちょっと大きめのバスケットを持参中

アリス「そうそう、今日は霊夢のために、お土産を持って来たのよ！」

霊 夢「あら、ありがとう。それじゃあお茶を用意するわね」

魔理沙「霊夢う〜、特級茶葉で頼む！」

霊 夢「はいはい……⑨番茶でいいわね？」

4、三人で縁側でまったり

お菓子を手に取り、魔理沙が一口パクリと

魔理沙「やっぱアリスが作るブラウニーは美味しいな。
生地がしっとりしていて、それでいてベタつかない
スッキリした甘さだ。ココアはバンホーテンの物を使用したのかな？」

アリス「フッフ、ありがとう魔理沙」

霊 夢「ホントに美味しいわね。でも、作るのはいつもアリスね。
……魔理沙が作ったりとかしないの？」

パート2 シーン1-2 博霊神社

5.魔理沙が不満そうな顔で

魔理沙「えー？私だって作ることはあるぜ？」

アリス「あら？魔理沙が作ったお菓子なんて食べたことあったかしら？」

霊 夢「アリスが食べたことなかったら誰も食べたこと無いんじゃない？」

6.ムキになる魔理沙

魔理沙「そんなことないだろ！？この前、作ってやったはずだぜ！
ほら、この前もらったバレンタインのおか……え……」

アリス「もらったかしら？」

魔理沙「あーっ……」

霊 夢「わたしもあげたけど、お返し無いわね〜……義理だけど」

ちょっと沈黙

7、次第に顔色の悪くなっていく魔理沙

霊 夢「…魔理沙？」

アリスは落ち着いてお茶を飲んでる

8、青ざめた顔の魔理沙

魔理沙「ああああああああ！！忘れてたああああ！！」

突然立ち上がる

アリス「わっ！ちょっと魔理沙！？」

突然で驚くアリス

魔理沙「ホワイトデー！ごめん！！忘れてた！
そこでだアリス！悪いがもう少しだけ、追加で待っててくれないか？待っていたらたぶん、
魔理沙さんの素敵なプレゼントが先着1名様にもれなく配られることになるはずだ！たぶん！」

霊 夢「先着1名……私には無いのね」

魔理沙「霊夢はたくましく生きていてくれ！」

霊 夢「ちょっと待て！！！」

9、すごい勢いで飛んで行く魔理沙

魔理沙「では諸君っ！さらばだー！！」

【画像④】星となって消える魔理沙

10、あっけにとられたアリスと霊夢

霊夢「恋する乙女のパワーは凄いわね〜」

アリス「え！恋なんて……そんな、もう！霊夢ったら……ばかあ〜↑」

霊夢「はいはい、ごちそうさまでした」

アリス「お粗末さまでした(ペコリ)」

霊夢「……」

アリス「……」

霊夢「あーっ……、でも魔理沙がお返しを忘れてたとはねー」

アリス「いいのよそんなこと。私は魔理沙といっしょにいてだけで幸せを感じられるんだから」

霊夢「はいはい、ごちそうさま」

アリス「お粗末さまでした(ペコリ)」

霊夢「……」

アリス「……」

萃香登場(障子の影からズイット)

や 萃香「霊夢う〜、客か？」

霊夢「アリスよ」

アリス「萃香、こんにちわ。よかつたらこれどう？」
(ブラウニーを見せる)

や 萃香「イカシミ焼き？」

霊夢「お菓子よ！この酒飲みが！」

アリス「はい、萃香☆」(食べさせてあげる)

や 萃香「(ハグ)あっ……まい！！」

霊夢「お菓子だからね」

アリス「はい！霊夢も」(食べさせてあげる)

霊夢「えっ！？わっ、ちよっ……(はぐ)」

「……おいしい」

「じゃあ、アリスにも。(クイツ)」

アリス「(はぐ)うんぐっ！……じゃあ、霊夢にもう一回〜(ニヤニヤ)」

や 萃香「わたしも食べさせる〜！」

霊夢「おまえら……」

11、少女移動中...(魔理沙が飛んでる、空がふよふよ画像)

→紅魔館へ

や 1、門の前でチルノ「あたー」と
ルーミア「そーなのかー」
が輪を描くように走り回り(はしゃいでいる)
大妖精がニコニコとそれを見ながら、紅美鈴とお話している。

大妖精「隣の垣根に囲いが出来たんですって！」
紅美鈴「へー」

そこに咲夜さんが登場

咲夜「お仕事の最中におしゃべりとは、ずいぶんと大層な御身分ね～？ ↑」

目は笑っていない

大妖精「あっ！……とっ、どうも(ぺこり)」
あせあせ

紅美鈴「……さっ咲夜さん！！……やっ、その、え～とですね……
そう！門の中には進入させていません！」
あせあせ

咲夜「そう、仕事は全部していると言う訳ね」
無言で見ないで上空を指差す

空から紅魔館にすっ飛んで入っていく魔理沙。

紅美鈴「……進入させていただきました～」

無言でナイフでサクッとされる紅美鈴

おろおろする大妖精と、まだ走り回っているチルノ&ルーミア

パート4 シーン2-2 ヴァル図書館(紅魔館)

2、紅魔館図書館

咲夜「なにか作るのかしら？ 貸すのはいいけど、さすがに厨房はあとで返してね」

魔理沙「よー、パチュリー！遊びに来たぜ！」

や パチュ「ゲホッ、ゲホッ…あなたはいい加減、ドアから入って事を覚えなさい」(煙でむせてる声)

魔理沙「それで……今日は本を借りに来たんだ」

や パチュ「ギャー！！もってかないでー！」

魔理沙「大丈夫！ちょっと借りるだけだ」

や パチエ「借りる？盗むの間違えじゃない？」

魔理沙「いや返す気はある」

や パチエ「気だけでは返ってこないわ」

魔理沙「気持ちだけでも受け取ってくれ」

や パチエ「モノをよこせ」

魔理沙「現金だなーパチュリーは」

無言で指をパチンするパチエ

とたん飛んで来るナイフ

魔理沙「うおっ！」

一拍おいて

咲夜「魔理沙、また泥棒に来たの？」

魔理沙「よう咲夜！今日も素敵なお品をありがとう！」

ナイフをヒラヒラさせてる魔理沙

咲夜「あなたは相変わらず騒々しいわね～」 ため息

ため息と合わせて、息づかい(走ってきたような)

小悪魔「はあはあ……、パ、パチュリー様。また魔理沙さんが、やらかしたんですか！？」

や パチエ「その言い方だと、漏らしたみたいね」

魔理沙「わたしは子猫じゃないぜ！」

小悪魔「それは大変失礼しました(ペコリ)……
じゃなくて！魔理沙さんいい加減壁を突き破ってくるのやめてくださいよう！」

魔理沙「そうだ咲夜、あとで厨房貸してくれないか？」

小悪魔「って魔理沙さん全然わたしの話聞いてないし。わたしイジケちゃうし」

パート5 シーン2-3 紅魔館(厨房)

魔理沙「ああ、アレはわたしのポケットには、ちょっと大き過ぎるからな」

や パチエ「あっ！(ポン)、本をデカくすれば盗まれない？」

小悪魔「そーいう問題ではありません！」

咲夜「……で、アリスかしら？」

魔理沙「いや……まあ……そう、アリスに、美味しいお菓子をプレゼントしようと……」

や パチエ「あら、あなたにも可愛いとこ、あるのね」

魔理沙「可愛いのか？」

や パチエ「うん」

魔理沙「照れるぜ」

咲夜「わたしも作ろうかな」

魔理沙&パチエ&小悪魔「え！？」

小悪魔「えーと、お嬢様にでしょうか？」

咲夜「さて、誰のでしょうね～」
ニヤリとしながら扉の方を向く

咲夜「というわけで、一緒に作りましょうね、魔理沙☆」

魔理沙「ええっ！いい、いいよ！ひとりで出来るって！」

咲夜「あなたただだと、料理が出来ても厨房が大惨事になりそうだから」

や パチエ「うんうん、まさに推して知るべしね」

小悪魔「あの～、私も一緒にしてよろしいですか？」

咲夜「パチュリー様に？」

小悪魔「えっ！……は、はい！」

や パチエ「小悪魔のお菓子は好きよ。やさしい味がするから」

小悪魔「はい！！精一杯がんばらせて頂きます！」

魔理沙「厨房には女3人……女3人で姦しい(かしましい)ってヤツだな」

や パチュ「魔理沙……あなた意味を分かって言っているの？」

魔理沙「知らん！」

咲夜「いばるな！」

咲 夜「で、魔理沙は何を作りたいの？」

魔理沙「そーだなあ～(本をペラペラめくり)
このクレープ・マリエットってヤツにしようかな」

咲 夜「アンタねえ……
お菓子作り初級者が、そんな難しいの作ろうとしたら、どうなるか分かる？」

魔理沙「そんなもんか？うーん……じゃあこのクッキーは？チョコクッキー」

小悪魔「(ひよい)へ～、プレーンクッキーにチョコソースを付けるのですか」

魔理沙「ああ、チョコで顔とか描いたりな」

小悪魔「あ、それ面白そうですね」

咲 夜「そうね、それくらいが妥当かしら」

6.厨房にて

咲夜さん、冷蔵庫開けてみる

咲 夜「…あら？」

魔理沙「ん？どうした？」

【画像】:戸棚等を開ける咲夜さん

咲 夜「おかしいわね……」

小悪魔「どれどれ？(ひよい)
あーこれはこれは」

魔理沙「だから、どうしたんだよ？(魔理沙もひよいと)
あっ……」

一瞬の沈黙

咲 夜「チョコが無い」
小悪魔「タマゴも無くて」
魔理沙「作れない……」
(五・七・五調で☆)

魔理沙&咲夜&小悪魔「ああ～あ↑」(落胆の声、三者バラバラでも良い)

【画像】3者の顔(落胆)→天井→3者の顔(悩んでる)

パート6 シーン2-4 紅魔館(厨房)

7

レミリア「あら？三人そろって珍しい」

ふらっと厨房に現れるお嬢様

咲 夜「あ、お嬢様。いえ実は、クッキーを作ろうとしたら材料が無くて困ってたんですよ」

魔理沙「まったく品揃えの少なさにビックリだぜ」

小悪魔「魔理沙さん、うちはお菓子材料の店ではありませんよ」

レミリア「ああ、材料が無いっていうのは、私とフランで使ったから無いのよ」

咲 夜「え！？お嬢様は料理をされるのですか？」

レミリア「私じゃなくて、フランがどうしても作りたいて言うから。
わたしは現場責任者として居ただけよ」

咲 夜「それで出来たものは？」

レミリア「無いわ」

魔理沙「つまり無を生み出したワケだな」

小悪魔「魔理沙さん、深いですね～」

レミリア「深くはなくて、浅いわよ。結局散らかして、片付けて終わりよ」

魔理沙「遊んでホイカ」

咲 夜「もー、食べ物に粗末にしないで下さい」

レミリア「フランに言って！」
退散するレミリア

パート7 シーン2-5 紅魔館(厨房)

8

咲 夜「あ～しょうが無いわね～」

魔理沙「どうする、材料がないとクッキーが作れないぜ？」

小悪魔「そうですねえ……」

【画像】厨房にいる3人の立ち絵(小悪魔を真ん中に 右側:魔理沙 左側:咲夜さん)

咲夜「よし、魔理沙。材料の調達をしてきて」

魔理沙「さて咲夜、お前も一緒に来い」

咲夜「わたしは適任ではないわ」

魔理沙「なぜ私だけなんだ？」

咲夜「魔道シーフだから」

魔理沙「お前も盗んでたどろ。ロケット作るのに、うちに忍び込んで八卦炉を取ろうと。得意の手品を使うんなら、私より適任だ」

咲夜「逃げ足で言えば、魔理沙が最速で適任よ」

小悪魔「あの～、盗むの前提なんですね～」

魔理沙「払ったら負けだ」

小悪魔「たまには負けましょうよう～」

咲夜「ふむ、私も同行しましょう」

魔理沙「どうした？」

咲夜「あなたの負ける姿が見たい」

魔理沙「私は負けない！！」

小悪魔「それは結局、盗むということじゃあないですか～」

パート8 シーン3-1 人里

10.人里へ(店)

店から出てくるアリス

アリス「あら？魔理沙と咲夜？」

魔理沙「買ったのではなく、産みたてなんかどうだ？」

アリス「誰が産むの？」

咲夜「魔理沙が産むの？」

咲 夜「こんにちわ、アリス」

魔理沙「あれ？霊夢のどこにいたんじゃないのか？」

アリス「二人とも酔って寝ちゃったから」

魔理沙「なんで緑茶飲んでて、酔っ払うんだ？」

アリス「萃香がいたから」

魔理沙&咲夜「なるほど、飲んだのか」

アリス「ふたりは、お菓子の材料買いに来たの？」

魔理沙「そーだが、ココはアリスのよく来る店か？」

アリス「そうよ、大抵のモノが揃うからね」

魔理沙「そーなのかー……う〜ん」

咲 夜「何かまずいの？」

魔理沙「美味しいものを作ろうとしているが……ちょっとまずいな」

咲 夜「まずいのはダメね」
悩むポーズの咲夜

注記：魔理沙(悩んでる)、咲夜(悩んでるフリ)、アリス(それを見ている)

魔理沙「アリスには今まで食べたことの無い味を堪能してもらいたいんだ」

咲 夜「なるほど！ここのお店の味は、アリスは知ってるわけね！」

アリス「店の味って……材料屋だけど……」

咲 夜「全部じゃなくても、どれか1つでも奇抜な材料があればいいんじゃない？」

アリス「……その、奇抜な食材を食べるのは私なんだけどー」(嫌そうな顔)

魔理沙「あ、そうだ！」

咲 夜「どうしたの？」

魔理沙「タマゴも無かったよな？」

咲 夜「そうね」

魔理沙「私は鳥ではない。だが、鳥の知り合いはいる」

咲 夜「夜雀(よすずめ)ね！」

アリス「ちよっ！食材の出所は知っときたいから、私も付いてく！」

パート9 シーン3-2 ヒマワリ畑

11
ミスティア「ぎゃーっ！！」

魔理沙「待てーっ！！」
魔法弾。ミスティアの横をかすめる(数発)

魔理沙「咲夜！」

瞬間、咲夜の姿は、幽香の後方へ

咲夜「はい、タネ無し手品でございま〜す」
両手を広げると、周囲に無数のナイフ

咲夜「おとなしく卵を産んでくれれば危害は加えないわ！」
ナイフ投げ

ミスティア「無理無理無理っ！産めない！というか危害すでに加えてるじゃないかー！」
泣きながら逃げ回る

アリス「……」
完全にあきれてる表情。

いつの間にか、周囲にひまわりが咲いている。

魔理沙「ちょこまかと！ええい！！マスタースパーク！」

ちゅどーん！

一瞬の沈黙

周囲に煙→シルエット→幽香

幽香「あらー？面白い花火を上げる輩(やから)がいると思ったら……懐かしい顔ね」

魔理沙「なっ！？幽香」

アリス「魔理沙！」
抱きつくアリス

咲夜「どうやら、厄介なところに紛れ込んだようね」

ミスティア「ひーーーーーーーーーーーーっ！！」
逃げて行くミスティア

【画像】背景に、メディスンもいる

幽香「お久しぶり、魔理沙。どこで、
(傘で黒くなった場所を指す)
あれが何か説明してくれない？」

魔理沙「(咲夜、アリス)」小さな声で
咲夜「(うん、わかった)」小さな声で
アリス「(みんな無茶しないで)」小さな声で

幽香「どうしたの？答えられないの？
なら……
(一気に傘を振り上げる)
答えられるようにして挙げるわ！！！」

咲夜「幻在「クロックコープス」！」

幽香「フン」
日傘を広げ、すべてガード

直後すぐに、
魔理沙「恋符「マスタースパーク」！」

画面が白色
晴れると幽香

幽香「あらハズレよ」
にっこり
幽香「お返し、マスタースパーク」

魔理沙「うわあああああああつ！！」

アリス「魔理沙あああああつ！」

画面暗転

パート10 シーン4-1 紅魔館(厨房)

魔理沙「う、う～ん……アレ？ここは？」

アリス「魔理沙！？」
アリスが膝枕していた

小悪魔「気付かれたんですか？」

小悪魔「びっくり？」

魔理沙「危険そうな……」

アリス「なんでも……5個中、1個がハズレだって」

小悪魔「こわっ！？」

咲夜「おはよう魔理沙」

魔理沙、アリスの頭をなでながら、周りを見て

魔理沙「幽香は？」

咲夜「花畑を荒らしたのは私たちです。ごめんなさい。と言ったら許してくれたわ」

魔理沙「そーか……うん、よし！次は勝とうぜ！」

咲夜「何気にタッグを組もうとしないで」

アリス「そうよ！もう危ないからやらないでね！」

小悪魔「そーですよー、もしリベンジするにしても、私は巻き込まないで下さいね～」

魔理沙「お前には100年早い」

小悪魔「ひどっ！」

魔理沙「アリス……、そーだな、自重するよ」

アリス「うん！」

咲夜「それでは、お菓子作りを始めましょうか」

小悪魔「そーですね」

魔理沙「というわけで、プレゼントされる人は出てって下さい」

アリス「はい！……あ、出て行く前にコレを！」

(5個のたまごの入ったバケツを渡す)

魔理沙「これはどうしたんだ？」

咲夜「気絶したあなたを連れ帰る途中で、蓬莱人に会ったの」

魔理沙「永琳？」

咲夜「そう、たまごを探してるって事情を話したら、恵んでくれたのよ」

小悪魔「永琳さんのたまご？大丈夫ですか？」
(不安そうな小悪魔)

アリス「地獄カラスのたまごinビックリセット！だって」

パート11 シーン4-2 紅魔館(厨房)

13.料理中

小悪魔「魔理沙さん、お湯ください」

魔理沙「おう、粉と混ぜるのか？」

小悪魔「混ぜないで下さい！！バターを湯せんするんです！」

魔理沙「ハズレはどうなるんだ！？」

咲夜「割ってみてからの楽しみね」

(不自然な真っ黄色な黄身)

魔理沙「それは大丈夫なのか？」

咲夜「味見したら？」

小悪魔「(混ぜながら)怖くて出来ません！」

咲 夜「天ぶらじゃないんだから」

魔理沙「クッキーの天ぶら？」

小悪魔「気持ち悪いです」

咲 夜「じゃあ、わたしはチョコを溶かしておくわ。魔理沙、こっちにもお湯」

魔理沙「よっしゃ！」

咲 夜「だからお湯を入れるな！」

【画面反転】

小悪魔「で……でわ、たまごを入れます」

魔理沙「ドッキドッキ」

咲 夜「ごくり」

小悪魔「ここは思い切って……えい！」

(パリッ)

ちゅど—————ん！！

周りに真っ赤な霧

小悪魔「ゲホゲホガハゲホッ！」

魔理沙「ぐえ————、か、辛い〜〜っ！？」

咲 夜「けほけほ……からしの〜霧〜↑」

魔理沙「ひっどいぜ(げほげほ)」

小悪魔「ギヤー、目が〜目が〜」

【画面反転】

小悪魔「では気を取り直して、他のたまごを入れます」

パート12 シーン4-3 紅魔館(厨房)

魔理沙「お湯はいらんか〜？」

小悪魔「もー入りません！」

魔理沙「ケチー」

へらでボウルの中身を混ぜながら、魔理沙に文句

咲 夜「魔理沙、オープンの用意！」

【画面反転】

アリスとパチエが仲良く読書

(アリスの顔を見るばちえ)

アリス「なによ？顔に何か付いてる？」

や ばちえ「な、なんでもない(アセアセ)」

や ばちえ「(死相が見えた気が……)」小声で

【画面反転】

(くるくる〜ダイヤモンド〜♪)

や チルノ「魔理沙、あたいは何をするんだ？」

咲 夜「なるほど」

小悪魔「冷えたら美味しそうですね」

魔理沙「おう！」

八卦炉を暖炉にかざす。

【画面反転】

トレイに並ぶ、無数のハート型のクッキー

魔理沙「さて、嬉し恥ずかし、チョコ落書きタイム！」
こぶしを振り上げる

小悪魔&咲夜「おーっ！」
こぶしを振り上げる

魔理沙「さて、何を描こうか？」

咲 夜「オーソックスに、愛の言葉とかどう？」

小悪魔「『君の瞳に映る、わたしが美しい！』というやつですね」

咲 夜「ただのナルシストね」

魔理沙「え〜と……『好きだよ』」

咲 夜「わたしは顔を描くわ」

小悪魔「あっ！わたしもパチュリー様を描く！」

魔理沙「あっ！ちよっ！？それならわたしもアリスだ！」

小悪魔「そーいえば、チョコで描いても、固められなかったら、ベタベタなままですよ〜」

咲 夜「時を止めて凍結する？」

魔理沙「そしたら破壊不可能なクッキーになるぞ」

小悪魔「硬度10以上の難攻不落のクッキーですか！？」

魔理沙「それではヤバイのでこれを使う」

机の影からひょいと掴み上げる

パート13 シーン4-4 紅魔館(厨房)

14.そしてついに完成！！

魔理沙「よっしゃああ！完成だぜ！」

咲 夜「うん、上出来！」

小悪魔「魔理沙さんおめでとうございます！」

みんなでパチパチ拍手

慌てて受け取る小悪魔

や パチェ「本は大事に扱って！」

小悪魔「返すなんて珍しいです。感謝の気持ちですかね？」

咲 夜「も一料理する気が無いだけかも。爆発したり、死に掛けたり」

や パチェ「危険ね」

や パチェ「騒がしいと思ったら、やっと完成したようね」

小悪魔「あ！パチュリー様！そうです！出来たんです！だからコレを！」
ズバツ！とクッキーを乗せたお皿をかざす。

や パチェ「わっ！わたしの顔！？」

小悪魔「そーです！」

や パチェ「うまく描けてるわね」

小悪魔「ありがとうございます！」

一つ摘んで、
小悪魔「わっ！？」

食べて、
や パチェ「うん、美味しいわよ、小悪魔」

小悪魔「あ……美味しかったですか」

咲 夜「食べても大丈夫みたいね」

魔理沙「これで安心だぜ」

や パチェ「……何やら不安な会話が……」

魔理沙「パチュリー、アリスはまだ図書館か？」

や パチェ「あー、少し焦らすのもいいかもねって、博麗神社に行ったわ」

咲 夜「逃げたのかしら？」

小悪魔「食べても大丈夫だって伝えないと」

魔理沙「そうだな！行ってくる！」
駆け出す魔理沙

魔理沙「いろいろアリガトなー！」
遠くから本を投げる

小悪魔「普通、料理で命に危機は訪れません！」

パート14 シーン5-1 上空

15.魔理沙超高速で移動中。その進路上にナゾのシルエット

魔理沙「そーこーをーどーけーっ！」

お 空「うにゅ？」

ドカーン

魔理沙「いててて、どけて言ったらろ空……」

お 空「いたたた、どけと言われてどくヤツがあるか！？」

魔理沙「普通はどくぞ」

お 空「知らない」
バタバタ飛んでく空

魔理沙「なんなんだー？↑」

魔理沙「うん？」
手荷物を確認してる魔理沙

魔理沙「……あっ」

【画面暗転】

パート15 シーン5-2 博霊神社

霊 夢「お、来たみたいね」
空を見上げている

アリス「うふふふふっ」
ニヤけるアリス

魔理沙「……アリス～」
困った顔の魔理沙

霊 夢「おや？」

アリス「どうかしたの？」

魔理沙「あんぐっ、おいひい」

アリス「おいしかったんだ！」

魔理沙「うん！おいしいよ！」

アリス「じゃあ、わたしも食べて平気だね！」

魔理沙「……」

アリス「……」

魔理沙「これ……」
包みを開ける。
中には割れたクッキー

霊夢、一つ摘み上げて
霊夢「ハートが見事に割れてるわね」

魔理沙「ごめんな、こんなプレゼントで
しゅん、となる

魔理沙「ハート形がんばったんだけどね、ハートのクッキーを、アリスに食べさせたかった……」

霊夢「魔理沙……」

アリス少し考え込み、
アリス「……魔理沙」

魔理沙「うん？」

アリス「これ持って」
魔理沙の絵が半分に描かれた、ハートの片割れを持たせる

魔理沙「お、おう」

アリス「それとこれ」
アリスの絵が描かれた半分

アリス「ね、こーして合わせると」

魔理沙「あは、はーと☆」

アリス「ほら、全然壊れてないよ。魔理沙の気持ち」

魔理沙「ありがとう、アリス！」

背景に、なみだぐみながら、ウンウン言ってる霊夢

アリス「じゃあ、がんばったご褒美！」

魔理沙に食べさせる

魔理沙「わたしで毒見させるな！させるなら霊夢にしろ！」

霊夢「待てコラガキ！」

アリス「アハハハハハハハ☆」

魔理沙がアリスにクッキーを食べさせてる絵

パート16 シーン5-3 紅魔館門前

18.ED後

紅魔館

立ったまま居眠りしてる美鈴

美鈴「ゲーゲー」

さくっとナイフが刺さる

美鈴「ギャー！」

暴れまわる美鈴

咲夜「あっ……」

美鈴「お返しです」

一瞬、驚いた顔
後、赤らめた優しい表情で、

咲夜「うん、ありがとう」

END

咲夜「寝てるな！」

美鈴「ごめんなさいー」

咲夜「どーして寝てるのかしら？」

美鈴「ごーめーんーなーさーいー」

咲夜「門番の仕事をちゃんとやりなさい」

美鈴「はい！がんばります！！」

咲夜「これからがんばってくれるのね？」

美鈴「はい！」
敬礼！

咲夜「じゃあ、がんばってくれるんなら、」

言って、手に持ったクッキーを1つ、美鈴の口に入れる

美鈴「はぐっ……」

咲夜「プレゼント」

美鈴「……おいしい」

咲夜「そう、よかった☆」

一拍おき、

美鈴が、咲夜を見つめて、

美鈴「咲夜さん、すみません」

咲夜「なに？」

咲夜が言った瞬間、ほっぺにKISS